



MR教育研修実務者連絡会



日時:平成29年10月25日(水)13:00～17:00

場所:ベルサール八重洲

開会の挨拶 日本ジェネリック製薬協会 伏見 環 理事長

特別講演 講演Ⅰ)「地域包括ケア時代に求められるMR像—18年度改定のその先にあるもの」

講師 株式会社ミクス Monthlyミクス編集長

沼田 佳之 先生

講演Ⅱ)「在宅薬剤師業務等を円滑に行うための製薬企業MRの対応について」

講師 公益社団法人 東京都薬剤師会 副会長

有限会社クリーン薬局 代表取締役

大木 一正 先生

MR教育研修事例報告

大原薬品工業株式会社 研究開発本部 メディカルサイエンス部

担当部長 古川 裕昭 様

閉会の挨拶 MR教育研修検討チーム 中沢 敏之 リーダー

10月25日(水)ベルサール八重洲におきまして、MR教育研修検討チームの研修会を開催いたしました。

今回は会員会社から24社63名にご参加いただきました。

最初に伏見理事長より開催の挨拶として、最近のジェネリック製薬協会を取り巻く話題について説明いただきました。

特別講演では、株式会社ミクス Monthlyミクス編集長 沼田先生による「地域包括ケア時代に求められるMR」、さらに東京都薬剤師会副会長 大木先生による「在宅薬剤師業務等を円滑に行うための製薬企業MRの対応について」の内容でご講演をいただきました。

沼田先生は、今後の地域包括ケアの進展の方向性などの内容から、また2018年診療報酬・介護報酬の同時改定の動向からも、今後のMR活動の方向性についてご講演いただきました。医師が求めるMR像や医療現場で抱える問題で、医師とMRで認識に違いが

あることなど自社アンケート結果を使い詳細な説明をしていただきました。また、ジェネリック医薬品メーカーのMRの強みとして、広い領域の医薬品を取り扱っており、先発品メーカーのMRではできないことも可能であること等説明されました。今後のMR活動が従前の「施設型」から、より

地域に密着した「エリア型」へ変化していかなければならないという点を明確に感じ、ジェネリック医薬品メーカーMRの今後について検討すべき課題が見えてきました。

大木先生からは、長期に亘りご対応されている在宅医療における、薬剤師が実際に行っている内容が紹介されました。在宅患者さん服薬状態を知るために患者さんの排泄物の状況まで注意して観察していることや、服薬コンプライアンスの問題への具体的な対応方法として服薬後の一包化包装のゴミ回収カゴを置かせていただき、患者さんに服薬の抵抗を減らす様々な工夫などについてご講演をしていただきました。患者さんとの会話においても、食事を例にとっても、食欲があるか、美味しく食べられているか、飲み込めているかなどを聞くことによって、薬の効果や副作用が類推されることなど、今後の薬剤師の求められているモノからヒトへの対応の事例などのご説明をいただきました。また、高齢者の味覚障害の一番の原因は薬剤性であることを忘れてはいけないとのことでしたので、食事の話から得られる情報の重要性も示されていました。更に、在宅業務を行う上で製薬メーカーに求める地域での役割、医薬品情報や資料についても事例を交えて説明がありました。最後に、MRが医療関係者の立場を理解して活動する注意点を多くの事例を交えて、分かりやすく教えていただきました。

沼田先生の地域包括ケアから、大木先生の在宅医療への対応など、最近の医療の大きな流れが実感としてつながるご講演内容となりました。

また、MR教育研修の事例として、大原薬品工業株式会社 古川様より自社新薬の開発に絡みMR教育の取り組み状況を報告いただきました。

MR教育研修検討チーム中沢リーダーからは閉会の挨拶をいただき、盛会のうちに終了いたしました。

ご講演くださりました沼田佳之先生、大木一正先生には心より御礼申し上げます。

